

## 供待がある、旧佐地家の門

- 旧佐地家の門・供待・塀
- 切妻造り棧瓦葺き（門）  
入母屋造り棧瓦葺き（供待）
- 平面積 41.99 m<sup>2</sup>（供待）
- 旧所在地 名古屋市中区長堀町  
4-7（現東区白壁  
4-58）
- 昭和45年3月 佐地梯道氏より  
川崎市に寄贈
- 昭和45年3月 解体工事着手
- 昭和63年3月 移築復原工事  
完了



旧佐地家の門・供待

### ◆ ともまち 供待が特徴的な武家屋敷の門

この建物は、名古屋城の東南にあたる現在の東区白壁と呼ばれる旧尾張藩士の屋敷町の一角に、明治維新後の市街地近代化や、第二次大戦の戦災をもまぬかれて残っていました。ところが昭和44年に入り、県道の拡幅工事のため取り壊されるということになり、本園に移築保存するはこびとなりました。

建物の全体は、武家屋敷の入口にある門と、その名のとおり、屋敷を訪れた人のお供をしてきた人々が主人の帰りを待っていた供待、それにつらなる塀の三つから構成されています。特に供待については、往時は旧所在地周辺にも多くの類例が並んでいたのですが、現在では全国的にみてもめずらしい遺構です。長屋あるいは長屋門的な遺構は各地に現存していますが、この家のように、供待が独立した建物である例

は、ほとんど残っていません。

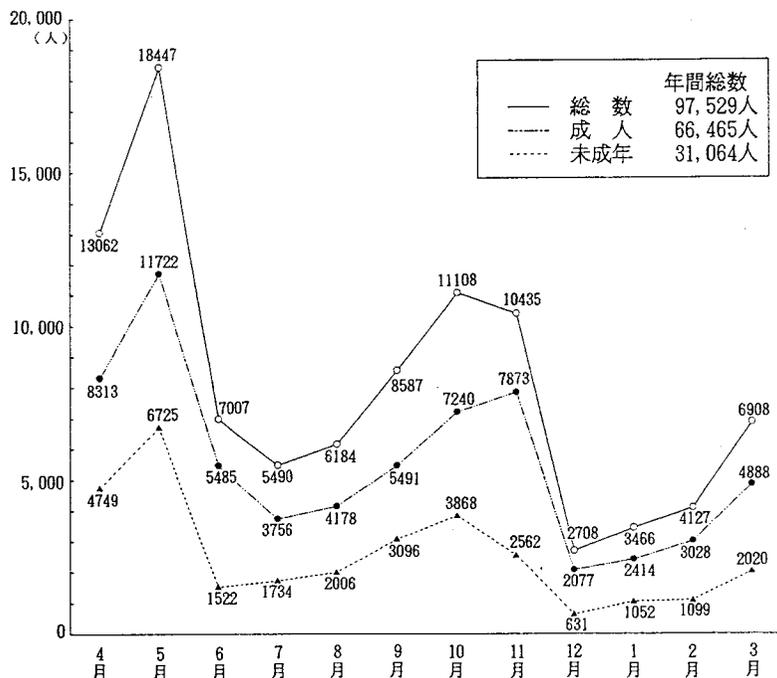
旧所有者がこの建物を含む屋敷全体を購入したのは、昭和初期のことでしたが、創建当初の所有者に関する口碑・資料の類は伝わっていませんでした。しかしその後、古地図等の調査により、禄高250石の尾張藩士石川氏が明治初頭まで代々所有していたことが特定できました。（但し残念ながら、石川氏のその後については追跡できませんでした。）

建物自体からその建築年代を示す資料は全く発見できませんでしたが、露出部の木材の風蝕、棧瓦の刻銘等を総合的に検討した結果、江戸時代後期、19世紀初頭ごろと推定しました。

### ◆ みどころ

- 三州瓦の屋根
- 道に面した出格子窓
- 門両脇の提灯の釣り など

# 平成2年度入園者統計



平成2年度の入園者数の状況についてご報告します。

詳細についてはグラフの通りですが、総入園者数は前年度より減少して9万人台に留まりました。未成年入園者に顕著に認められる近年の減少傾向が未だ継続していることが窺えます。

また、シーズン別に見ますと秋・冬期の減少幅が春期に較べ大きくなってきています。現在、これらの問題点を踏まえつつ本館建設等の事業を進めていますが、今後はより多くの方々に御来園いただけるようハード・ソフト両面の充実を図り、魅力的な博物館づくりを目指したいと思います。

## 園の動き

### ◆ 旧原家住宅復原工事完了

来年の完成をめざして現在工事が進行中の民家園本館地区（旧入園口付近）に、本館施設の一部として利用される旧原家住宅が、このほど本館棟に先がけて完成しました。一般公開は、本館棟の開館を待たねばなりません。民家園の新しい顔の登場です。

### ◆ 民具づくり教室—草木染め—〈2/24〉

ドングリの帽子、夏ミカンの葉、マリーゴールドの花を使って、木綿や毛糸を染めていただきました。寒い中、17名の参加者がありました。

### ◆ 民家園のポスター、第12回神奈川県市町村行政デザイン展部門優秀賞受賞〈2/27〉

◆ 体験学習—草ダンゴ作り—〈3/10〉 大変人気のある催し物で、25名の参加者がありました。

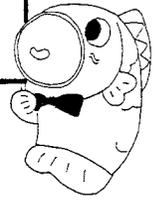
### ◆ 平成2年度第3回民家園協議会開催〈3/16〉

◆ 人事異動〈4/1〉 4月1日付で人事異動がありました。大石照蔵園長が3月31日をもって退職し、新たに中原図書館より小野昊園長が着任しました。



完成間近の旧原家住宅（3月初旬）

# 民家園まつりのご案内



春まっさかり、民家園では今年も恒例の“民家園まつり”を5月中に開催致します。楽しい行事を予定しておりますので、皆様お誘い合わせの上、是非おいで下さい。

## 民俗芸能公演

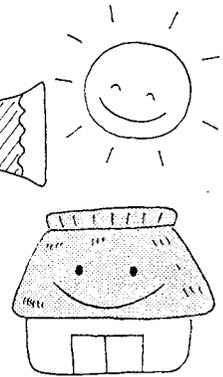
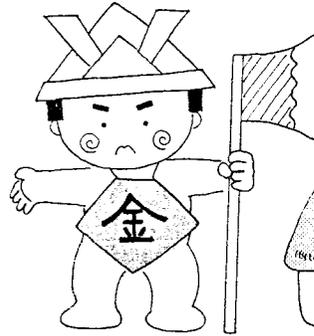
日時 12日(日) 12時30分開演(雨天の場合19日)

会場 旧船越の歌舞伎舞台

- 演目
- 1) 囃子、獅子舞—諏訪神社祭囃子保存会
  - 2) 祝い唄「初瀬」—菅祝い唄初瀬保存会
  - 3) 沖縄民俗舞踊—川崎沖縄芸能研究会
  - 4) 雅楽—高田興禅寺雅楽会

- 当日は会場付近に専用出入口を設けます。
- 公演のみ御観覧の方は無料です。

みんなでお来こね♡



こしなのも  
着られるヨ



- 民具着用体験(5.12.19.26日)
- 民具手づくりコーナー(上に同じ)
- 民俗資料の展示(2~31日)

いずれも旧作田家住宅及び前庭で行っております。当日ご入園の方なら、どなたでもご自由にご参加下さい。

## あなたも参加してみませんか!

民家園では、7月までの間、次のような催し物を企画しております。どうぞふるってご参加下さい。(お申し込み、お問い合わせは、電話044(922)2181)

◆民具づくり教室—竹細工—  
日曜ごと3日間にわたり、花器など6種類の竹製品を作っていただきます。

○日時 6月2日、9日、16日  
午前10時から午後3時

○お申し込み 5月19日(日)

午前9時から電話で先着20名様まで

○教材費 4,200円(6種類分)

◆手作りコーナー

—ワラ細工・ハタ織り—

○日時 6月23日(日)午前10時ごろより

○対象 当日入園の方 ○無料

◆手作りコーナー—竹細工—

○日時 7月28日(日)午前10時ごろより

○対象 当日入園の方 ○無料

## 年中行事展示

◆端午の節供<5月中>

武者人形を飾り、鯉のぼり、武者のぼりをあげます。

◆七夕まつり<7月中>

入園の方に、自由に短冊を書いていただきます。

◆万歳洗まんがい<7月中>

田植えの終了を祝い、田の神と農具に感謝を捧げる展示です。

# 端午の節供と五月人形

5月5日は端午の節供。男の子のいる家庭では、五月人形を飾り、<sup>いのぼり</sup>鯉幟をあげたり、外幟をたてたりすることでしょう。また、柏餅や<sup>ちまき</sup>粽を食べる、菖蒲湯に入るなどの習慣もあります。ここではこの、端午の節供について少し御紹介したいと思います。

端午とは、月の端の午の日とも、端五、つまり月の端の五の日の意味であるともいわれています。古く中国では、5月を悪月<sup>ものいみ</sup>（物忌の月）、そのうち特に5日を重五の悪日とし、その災厄や邪気をはらうために、五色の糸を臂<sup>ひじ</sup>にかけ、魔除けの力があると信じられていた菖蒲を浸した酒を飲み、また、蓬で作った人形を門戸にかけたり、蘭湯に入ったりする習慣がありました。この風習が日本に伝えられ、平安時代にはこの日、朝廷で節会が催され、群臣達は、蓬や菖蒲を冠に結び付けたり、また一般でも、季節の変わり目に襲ってくる邪気を防ぐために神の依代<sup>よりしろ</sup>として、菖蒲や蓬を屋根にかけたり、軒にさしたりして無病息災を祈りました。

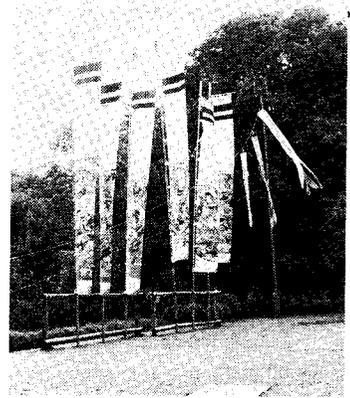
武士の時代になると、「菖蒲」と<sup>しやうぶ</sup>「尚武」の音通から、端午は武家階級に殊更もてはやされるようになり、<sup>やぶさめ いんぢう</sup>流鏝馬や印地打ち（石合戦）や菖蒲切りなど、<sup>ぶぼ</sup>武張った行事がこの日に集中するようになりました。そして女子の節供である雛節供に対する男子の節供とされ、江戸時代には五節供の一つとして重んじられました。

現在の端午の主役である五月人形は、江戸時代から飾られるようになりましたが、その起源は蓬の人形が変化したものとも、菖蒲を冠に付けた菖蒲鬘の変形した菖蒲兜が母体ともいわれています。人形を含む五月飾りは、はじめは家の前の門口の両側に柵を設け、ここに幟や人形や武具などを飾る、いわゆる外飾りでした。現在のような座敷飾りが始まったのは、江戸時代中期以降のことで、幟や具足飾りと共に、神功皇后と武内宿禰、牛若丸と弁慶<sup>しやうき</sup>、鐘馗、金時などの人形が好んで飾られていたようです。

## 編集後記

春になり、民家園まつりの季節がやってまいりました。民家園まつりの準備が始まると、あまた新しい年度がスタートしたのだなと感じる次第です。期間中は民俗芸能公演を中心に各種の行事が組まれています。準備を進める側にとって一番気がかりなのは、芸能公演当日のお天気です。今年も五月晴れで、満員御礼となっております。

五月人形と並んで、端午のもう一つの主役である鯉幟も、やはり江戸時代の外飾りを継承したものです。もともと鯉幟は、外幟の先に付けた<sup>まねき</sup>麾で、それが吹き流しとなり、独立して現在のような形となったものです。その為別名鯉の吹き流しとも呼ばれます。鯉は、中国黄河の竜門の滝登り伝説からめでたい出世魚と信じられており、子供の立身出世を願う気持ちから特に重んじられ、盛んに鯉幟があげられるようになったといわれています。しかし、鯉幟に限らず、人形も幟飾りも、もともとは田植えの季節<sup>おきしろ</sup>に来訪する神を迎える招代が変化したものであり、当時の人々の厄除けへの思いがうかがえます。このように、五月人形にも鯉幟にも、多くの人々の願いがこめられた、古くからの由来があるのです。



旧北村家住宅前の幟飾り



鐘馗